

2025年9月26日

いわぎんリサーチ&コンサルティング株式会社

岩手県内消費者マインドアンケート調査－2025年8月調査－について ～暮らし向きは3期連続で悪化、物価上昇により家計が苦しくなったとする回答は7割超～

いわぎんリサーチ&コンサルティング株式会社（代表取締役 佐々木泰司）は、県内の消費動向を把握する観点から実施した「岩手県内消費者マインドアンケート調査」の調査結果を以下のとおり公表します。

1. 暮らし向きD I（「良い」－「悪い」）

暮らし向きD Iは3期連続で悪化の動きとなり、厳しい状況が継続している。また、年齢階級別に見ると、引き続き年齢が高い層で相対的にマイナス幅が大きい状況となっている。

現 状：マイナス35.9（前回調査比4.1ポイント低下）

⇒年齢階級別：20歳台 マイナス5.0、30歳台 マイナス28.8、40歳台 マイナス40.7、
50歳台 マイナス44.2、60歳以上 マイナス44.1

2. 収入・支出D I（「増加」－「減少」）

収入D Iは依然としてマイナス圏での推移となっており、賃上げの動きは継続しているとみられるものの、本調査では多くの家計で収入の伸びを実感できていない結果となった。また、支出D Iはプラス幅はやや縮小したものの引き続き高水準での推移となっており、物価上昇の影響が表れているものとみられる。

・ 収 入：マイナス11.7（同2.0ポイント低下）

・ 支 出：プラス37.5（同0.8ポイント低下）

3. 最近の物価の影響を受けた家計の状況

最近の物価の影響を受けた家計の状況については、「非常に苦しくなった」と「苦しくなった」の合計が70.4%となり、多くの家計で物価の上昇によるマイナスの影響を実感している。

非常に苦しくなった：18.6%、苦しくなった：51.8%、以前と変わらない：28.8%、
楽になった＋非常に楽になった：0.8%

本調査の内容は別紙のとおりです。

なお、本調査については9月30日に弊社ホームページへ掲載いたします。

（弊社HP ⇒ レポート ⇒ Research Report 2025年10月）

《問い合わせ先》
いわぎんリサーチ&コンサルティング株式会社
経営支援部 地域経済調査担当 阿部 瑛子
TEL：019-624-8344

2025年9月26日

岩手県内消費者マインドアンケート調査
－2025年8月調査－

いわぎんリサーチ&コンサルティング株式会社
代表取締役 佐々木 泰司
盛岡市中央通一丁目2番3号
(担当 経営支援部 地域経済調査担当 阿部 瑛子)
TEL 019-624-8344

岩手県内消費者マインドアンケート調査 — 2025年8月調査 —

当社では県内の消費動向を把握する観点から、県内在住の個人を対象に暮らし向きや収入・消費支出の増減などについてのアンケート調査を実施した。

【調査要領】

○ 調査内容

- ・ 1年前と比べた暮らし向きの現状と先行き
- ・ 1年前と比べた収入および支出の増減と費目別の支出の増減
- ・ 最近の物価の影響を受けた家計の状況とその対応策

○ 調査時期：2025年8月

○ 調査対象者：県内在住の20歳以上の個人 (学生を除く)

○ 調査方法：インターネットリサーチ

○ 有効回答者数：738人

○ 回答者属性：右表のとおり

DI (Diffusion Index)：本調査では「プラス（良い、増加等）」の回答割合から「マイナス（悪い、減少等）」の回答割合を差し引いた値とする

		回答者数 人	構成比 %	平均年齢 歳
全 体		738	100.0	47.4
性 別	男 性	357	48.4	48.7
	女 性	381	51.6	46.1
年 齢 階 級 別	20 歳 台	81	11.0	25.9
	30 歳 台	149	20.2	35.3
	40 歳 台	182	24.7	45.0
	50 歳 台	190	25.7	54.1
	60 歳 以 上	136	18.4	67.2
世 帯 年 収 別	200 万 円 未 満	67	12.0	50.4
	200 万 円 以 上	169	30.3	48.3
	400 万 円 未 満	150	26.9	47.4
	400 万 円 以 上	74	13.3	45.3
	600 万 円 未 満	56	10.0	45.5
	600 万 円 以 上	42	7.5	48.8
	800 万 円 未 満			
	800 万 円 以 上			

(注) 世帯年収別は「わからない」「答えたくない」の回答者を除く

1. 暮らし向き

(1) 現在の暮らし向き

1年前と比べた現在（2025年8月時点）の暮らし向きを「良い（良くなった）」と回答した割合が前回（25年2月）調査比 1.6 ポイント（以下、p）減の 5.7% となったほか、「悪い（悪くなった）」は同 2.5 p 増の 41.6% となり、現在の暮らし向き DI（「良い」－「悪い」）は前回（マイナス 31.8）から 4.1 p 低下のマイナス 35.9 となった。暮らし向き DI は 3 期連続で悪化の動きとなり、厳しい状況が継続している（図表 1、次ページ図表 2）。

年齢階級別に見ると、20歳台で改善が見られた一

図表 1 暮らし向き DI

		2025年 2月調査	25年8月調査	先行き	
			前回調査比	現状比	
全 体		△ 31.8	△ 35.9	△ 4.1	△ 30.2
年 齢 階 級 別	20 歳 台	△ 10.3	△ 5.0	5.3	△ 2.5
	30 歳 台	△ 23.5	△ 28.8	△ 5.3	△ 23.5
	40 歳 台	△ 29.1	△ 40.7	△ 11.6	△ 31.9
	50 歳 台	△ 42.8	△ 44.2	△ 1.4	△ 37.4
	60 歳 以 上	△ 43.7	△ 44.1	△ 0.4	△ 41.9
世 帯 年 収 別	200 万 円 未 満	-	△ 53.7	-	△ 40.3
	200 万 円 以 上	-	△ 45.0	-	△ 40.9
	400 万 円 未 満	-	△ 32.7	-	△ 18.0
	400 万 円 以 上	-	△ 24.3	-	△ 29.7
	600 万 円 未 満	-	△ 16.1	-	△ 25.0
	600 万 円 以 上	-	△ 19.0	-	△ 19.0
	800 万 円 未 満	-		-	

(注) 世帯年収は今回から設問に加えたため前回調査実績はない

方、その他の年代は悪化の動きとなり、引き続き年齢が高い層で相対的にマイナス幅が大きい状況となっている。

また、世帯年収別に見ると、年収の低い層でより暮らし向きの厳しさが窺われる。

（２）暮らし向きの先行き

6 カ月後の暮らし向き予想については「良い（良くなる）」と回答した割合は現状比 0.1 p 増の 5.8%、「悪い（悪くなる）」が同 5.6 p 減の 36.0%となり、先行きの暮らし向き D I（「良い」－「悪い」）はマイナス 30.2 と現状から 5.7 p 上昇する見通しである（前ページ図表 1、図表 2）。

年齢階級別に見ると、全ての年齢層でマイナス幅が縮小するとみられる。また、世帯年収別では 600 万円以上～1,000 万円未満の層で悪化の動きとなる一方、600 万円未満の層ではマイナス幅が縮小する予想となっている。

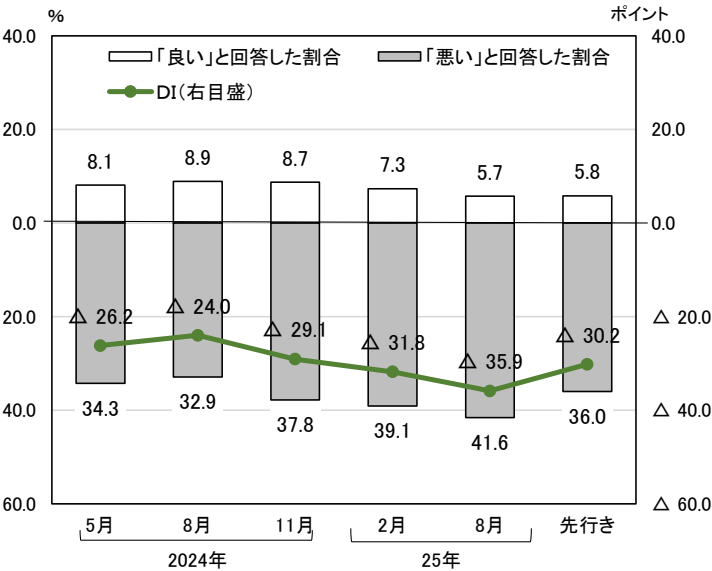
2. 収入および支出

（１）収入

1 年前と比べた世帯の収入の増減を示す収入 D I（「増加」－「減少」）は、前回調査比 2.0 p 低下のマイナス 11.7 となった（図表 3、次ページ図表 4）。賃上げの動きは継続しているとみられるものの、本調査では収入 D I は依然としてマイナス圏での推移となっており、多くの家計で収入の伸びを実感できていない結果となった。

年齢階級別に見ると、40 歳台と 60 歳以上でやや改善したものの、20 歳台は二桁台のマイナスとなったほか、30 歳台と 50 歳台も悪化の動きとなり D I は全ての年齢層でマイナスとなった。また、世帯収入別では収入の低い層でより厳しい状況となっている。

図表 2 暮らし向き D I の推移



（注）「悪い」の割合は下方向に表示している

図表 3 収入・支出 D I

		収入DI		支出DI	
			前回調査比		前回調査比
全 体		△ 11.7	△ 2.0	37.5	△ 0.8
年 齢 階 級 別	20 歳 台	△ 7.4	△ 13.1	23.5	1.9
	30 歳 台	△ 1.4	△ 2.0	33.5	△ 9.6
	40 歳 台	△ 8.2	0.2	41.2	0.4
	50 歳 台	△ 10.5	△ 1.4	44.2	△ 2.3
	60 歳 以 上	△ 31.6	2.5	36.0	7.1
世 帯 年 収 別	200 万 円 未 満	△ 29.9	-	19.4	-
	200 万 円 以 上	△ 16.0	-	43.7	-
	400 万 円 未 満				
	400 万 円 以 上	△ 4.6	-	44.0	-
	600 万 円 未 満				
	600 万 円 以 上	9.4	-	48.6	-
	800 万 円 未 満				
	800 万 円 以 上	3.5	-	39.3	-
	1,000 万 円 未 満				
	1,000 万 円 以 上	△ 2.3	-	47.6	-

（注）世帯年収は今回から設問に加えたため前回調査実績はない

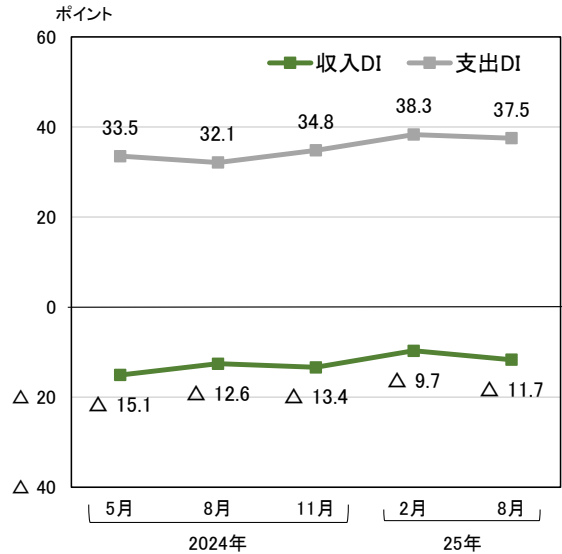
(2) 支 出

1年前と比べた世帯の支出の増減を示す支出DI（「増加」－「減少」）は同0.8p低下のプラス37.5となった。プラス幅はやや縮小したものの引き続き高水準での推移となっており、物価上昇の影響が表れているものとみられる（前ページ図表3、図表4）。

費目別の支出の増減を見ると、支出が増えたもの（＝DIがプラス）については物価上昇の影響などから「水道・光熱費」「飲食料品」「交通費」「家庭用品・日用消耗品」の4項目が突出している状況が続いている（図表5）。ただし、「交通費」は前回調査（2025年2月）から約15ポイント低下しており、これは25年5月より政府のガソリン価格を抑えるための支援策が実施されたことなどが要因とみられる。一方、支出が減ったもの（＝DIがマイナス）については、「旅行・レジャー」「外食」「教養・趣味・娯楽」「交際費」の4項目がマイナスとなっている状況が継続しており、節約を意識した行動を取っていることが窺われる。

物価の高騰が続くなか、本県の実質賃金指数を見ると25年3～4月は前年と同値あるいはわずかに上昇したものの5月は前年同月比6.2%減、6月も同2.1%減となるなど力強さに欠ける状況となっている。消費マインドの回復に当たっては、企業が今後物価上昇を上回る高水準の賃上げを実現できるかどうか注目がされる。

図表4 収入・支出DIの推移

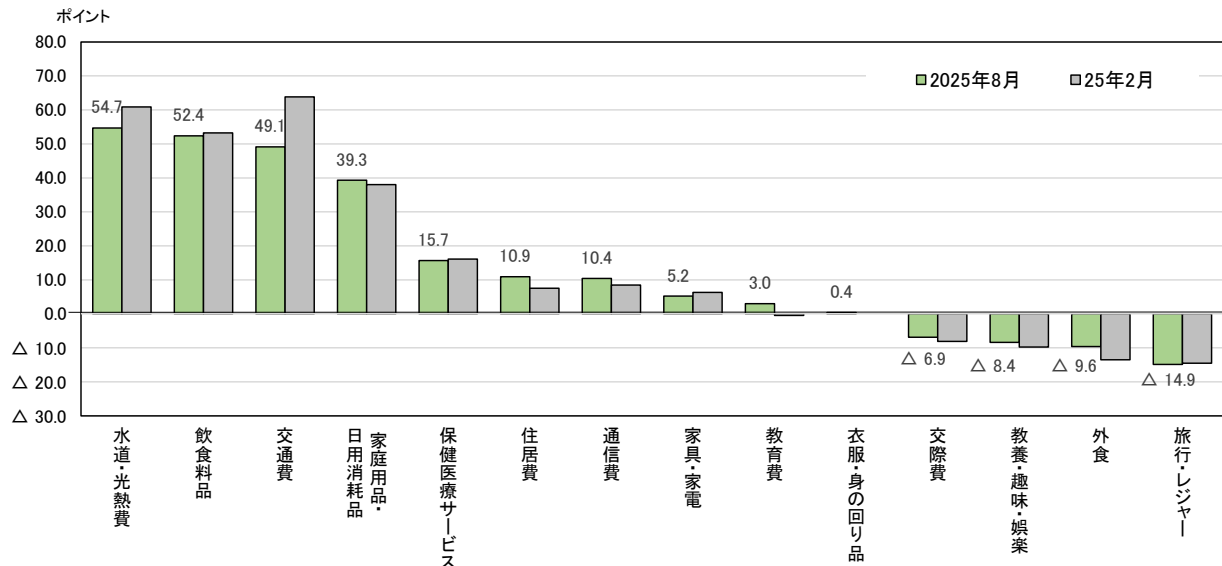


3. トピックス～最近の物価の影響を受けた家計の状況とその対応策～

2025年7月の盛岡市の消費者物価指数は前年同月に比べ3.1%の上昇となるなど、近年の上昇率は2～3%台の高水準で推移している。そうしたなか、ここでは最近の物価の影響を受けた家計の状況とその対応策について尋ねた。

最近の物価の影響を受けた家計の状況については、「非常に苦しくなった」が18.6%、

図表5 費目別の支出増減DI

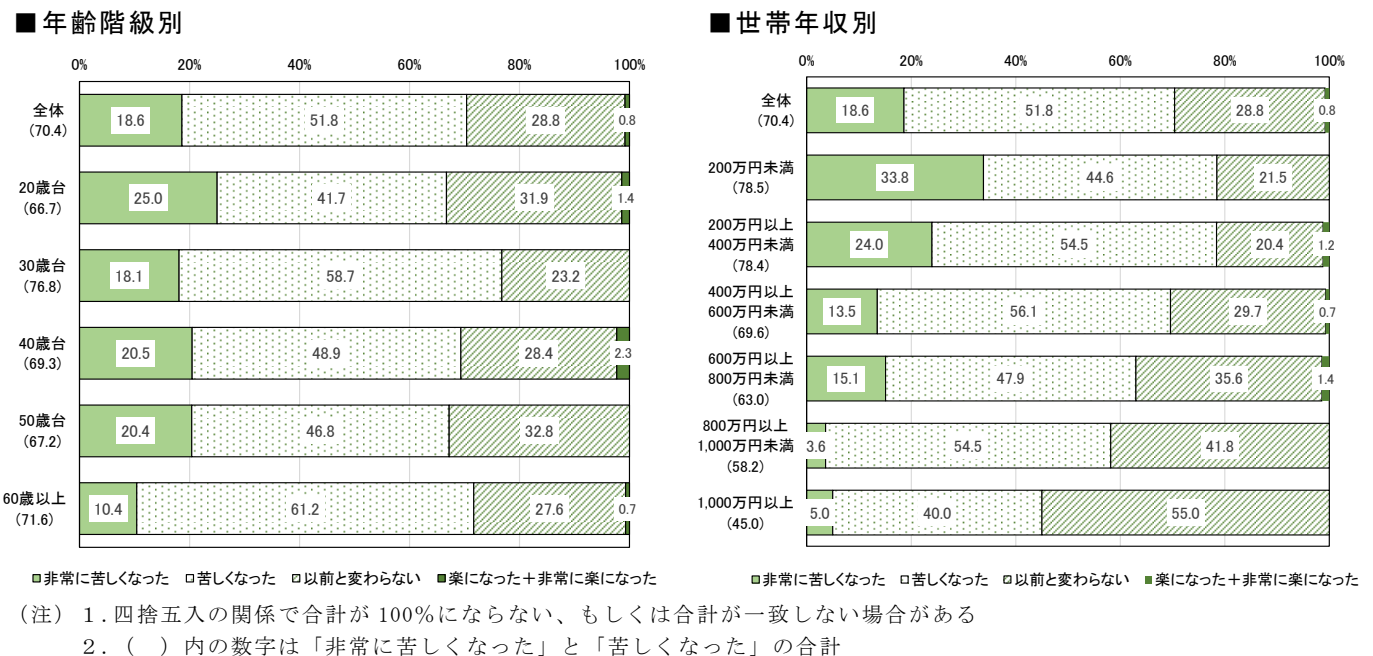


（注）「交通費」にはガソリン代を含む

「苦しくなった」が51.8%、「以前と変わらない」が28.8%、「楽になった」と「非常に楽になった」の合計が0.8%となった（図表6）。「非常に苦しくなった」と「苦しくなった」の合計は70.4%となり、多くの家計で物価の上昇によるマイナスの影響を実感している。年齢階級別に見ると、全ての年齢層で7割前後が家計が苦しいと回答している。また、世帯年収別では、相対的に年収が低い層で苦しいとする割合が高くなった。

さらに、「非常に苦しくなった」または「苦しくなった」とした回答者へその対応策を尋ねたところ、「必要なもの以外はできるだけ買わない」が77.1%で最も多く、次いで「ポイントの活用」が62.3%、「外食費の削減」が42.9%などと続いた（図表7）。外食や旅行・レジャーなどの費用のほか、食費や身の回り品など普段の生活においても節約の動きがあることが示され、物価上昇が様々な形で消費行動を抑制する要因となっていることが分かる結果となった。（マネジャー 阿部 瑛子）

図表6 最近の物価の影響を受けた家計の状況



図表7 最近の物価の影響を受けて対策として行っている（行った）もの（複数回答）

